

実技研修報告 第2回版画

「シルクスクリーン講座」

都立東大和高等学校 教諭 瀬戸口

1、はじめに

私は今年4月に採用された教員1年目の初任者である。昨年まで非常勤講師をやっていたが授業でシルクスクリーンを行ったことがなく、個人的な制作経験も数回しかない。当然教えられるレベルではないので、この機会にプロセスや技術的なことを学びたいと思った。自分自身つくる喜びを体感したくこの研修に参加した。

2、研修会について

日時	平成21年8月19日(水)～21日(金)
時間	9:00～16:00
場所	創形美術学校
講師	小山愛人(ファインアート科主任・日本美術家連盟会員)
内容	①ガイダンス、フィルム描画、PCでフィルム制作、製版 ②製版、版画用紙刷り ③製版、Tシャツ刷り
参加者	13名

3、制作過程

・フィルム描画、フィルム印刷

各自用意したA4サイズの4色で考えた下絵またはカラー写真(フラッシュメモリーなどでデジタル化したもの)をiMacに移動し画像データをPhotoshopでA4サイズにトリミングする。カラー3色分解で制作する場合はシアン、マゼンタ、イエローの白黒状態にし、単色フィルム制作で良い場合はシアン、マゼンタ、イエローの白黒状態の中で適当な調子の単色を選択する。それと手描きのフィルム1枚を組み合わせた4色で刷る。

シアン、マゼンタ、イエローそれぞれに好みの画像タイプ(ハーフトーンスクリーン、ディザ<砂目状>)、50%基準に2階調にわけ)を選択する。この時、線数や網点角度、網点形状などの数字を変更するが4版組み合わせたときにどうなるのか想像し難く、とりあえず最適であると指定された数字で試すことにする。プリンターでピクトリコシルクスクリーン用製版フィルムに印刷し、刷るとき目印となるトンボを2箇所つけておく。

・製版

感光をするための部屋に移動し製版の作業をする。バケットに感光乳剤を入れ、バケットのエッジを使って一気にムラなく塗らなければならない。緊張の一瞬だ。腕だけで持ち上げようとせず、からだ全体で一気に押し上げて塗るとうまくいった。乳剤は均一の厚さになるよう表2回、裏1回塗り、乾燥機内で15分程乾燥させる。乾燥したら感光機にフィルムと枠を置き密着させて露光する(4、5分程で完了)。露光後、裏側から全体に満遍なく濡らして表側から洗い流すと、細かい線などもきれいに抜き取られ洗浄される。この時トンボ部分も忘れずに溶かし去る。

・目止め

露光の時にフィルムやガラス面の汚れなどで版として必要のない部分に出来たピンホールを版の裏からマスキングテープで目止めをする。これが意外と多いのでなかなか大変。



・刷り

インクを混色する場合は、明るい色に濃い色のインクを少しずつ混ぜ合わせて作る。また、版を刷る場合も明るい色から順に版を重ねていく。(イエロー→マゼンタ→シアン) 枠をホルダーで刷り台に固定し、紙の角に合わせ鉤見当、約3分の2程度の箇所につき付け見当をテーブルに貼る。これは最終版まで同じ箇所で見当合わせをするため、絵のズレを防ぐ為に重要である。耳のある紙は見当の部分に合わせて切っておく。



いよいよ「刷る」作業に入る。版を浮かせた状態で手前にインクを置き、スキージを60度の角度で押し付けインクを版上に広げる。(メッシュにインクをつめる) 次に版を台上に下ろし反対の60度の角度で下に押し付けながらインクを掻き落とすつもりで手前に引いて刷る。スキージの角度、刷るスピード、強さ加減など難しく要領をつかむまで時間がかかる。小山先生は全体を見て回り熱心に個別指導してくださった。刷る作業は2人1組で行い1人は紙を差し替えて見当を合わせ、もう1人がインクを刷った。インクが乾かぬようテキパキと尚且つ絵がズレないように慎重に2人で息を合わせて行う。

最後の版を刷り重ね、枠を浮かせて刷り上がった作品を見た瞬間の感動は今でも忘れられず強く印象に残っている。油絵や水彩の仕上がりの感動とは違い、版画特有の感動であった。

・版の掃除と解版

その日に使った道具類はその日のうちに洗

剤、新聞、ウエスなどで綺麗に片づける。

解版の作業手順は以下のとおり。剥膜液をスポンジで版の両面に塗り、スポンジで擦り乳剤を溶かす(※メガクリーンは強アルカリで危険なので取り扱いには指導者の立会いのもと扱うこと)。この作業中、版が乾くと乳剤が化学変化を起こし楽な解版が出来なくなるので乾かないように気をつける。

強い圧の水を版の裏から全体にかけ乳剤を取り去る。

4、さいごに

はじめて実技研修会に参加させていただき、充実した3日間を過ごすことが出来た。シルクスクリーンの技法を学べたのはもちろん、皆で「ものづくり」することが互いに刺激になり、基本的には個人制作なのだが版を刷るときに共同作業で交流も深まった。さらに思い出深いオリジナルTシャツを作れたのがうれしい。Tシャツ刷りで配布されたTシャツは各自1枚だったので、もっとTシャツを刷りたい参加者は自分で用意していた。昼休みに購入しに行く参加者もいたほどだ。

慣れないことばかりで一つ一つの過程で気を使ったが作品づくりは楽しく面白い!このような実技研修(実技研修に限らず)は是非また参加したい。また学んだことを授業で還元して生徒にもつくる喜びを味あわせたい。

